

島立地区ウォーキングマップ

田園・史跡コース (南・北・西)



島立地区ウォーキングマップ (西コース抜粋)

福祉ひろば ウォーキング

皆さん、地区にウォーキングマップがあることをご存知ですか？平成21年に健康づくり推進部が中心となり、地区内に北・西・南と3つのウォーキングコースを作りました。

それぞれ約5キロのコースです。(マップは島立公民館・福祉ひろばに置いてあります。または松本市のホームページに全地区掲載)

毎年福祉ひろばでは、このマップを活用して地区内外のウォーキングを行っていただきます。5月31日、今年度1回目のウォーキングを行いました。松本オーブンガーデンガイドブックに掲載されている島立地区三角花壇(町区東)北野邸(小柴)柴邸(大庭)の3箇所を巡りました。手入れの行き届いたお庭は素



平成 30 年 7 月 1 日現在
世帯数 2,831 世帯
男 3,356 人
女 3,467 人
総人口 6,823 人

健康のためにウォーキングをされている方、歩かなくちゃと思っている方、ひろばのウォーキングに参加してみませんか？地域の方とおしゃべりしながらのウォーキングは認知症予防になることも検証されています。次回は7月31日、白馬へ出かけて歩きます。

晴らしく参加者の目を楽しませてくれました。柴邸では、満開のバラを見ながら、ご主人の打った蕎麦をいただきます。



沙田神社・奥社例祭

6月16日(土)に2年に1回の沙田神社・奥社例祭が斎行されました。奥社は、鬱蒼とした険しい峠道を麓から2時間程度登った波田・鷲沢の山中にあります。神気を感じるような肌寒さの中で、無事、祭祀を終え、参加した神官・氏子総代の皆さんは揃って安堵の表情を浮かべていました。



島立公民館で活動する団体・サークル紹介

島立公民館では月3回、講師の寺平先生と29名の生徒で行われています。実際体験してみると、エクササイズの後の方が片足立ちが楽にできるようになっていきました。寺平先生は「人は年齢に関係なく変わることができます。そのためには、教えることに決して妥協はしません。」と話されました。大変人気で、すでに定員は満ちていますので新たな募集はしていません。

小学校キュウリ定植 & 高綱中学校職場体験

5月18日島立小学校の3、4年生が校庭東側にある畑に島立特産のキュウリの苗を定植しました。指導や管理をしてくれる農協青年部の方から定植の方法や注意する事などを聞き、畝の上に置かれたキュウリの苗を1人1本ずつ植えて行きました。4年生は昨年もキュウリを定植し育てたことがありますので、慣れた手つきで植えていました。植えた後は、水の入ったペットボトルで自分の植えた苗の根元に、大きくたくさんのキュウリが採れるように願いながら水をやりました。植えられたキュウリは、順調に伸びると7月上旬から収穫でき50本ほどのキュウリが採れる予定です。

また、高綱中学校では、2年生がキャリア教育の一環として、職場体験実習が6月13日、14日の両日に行いました。市内の企業、病院、老人ホームなど実習場所に3〜5人程度向かい体験をしました。地区内のキュウリ農家にも3人の中学生が朝から体験実習にやって来て、農家の方が一



本一本選別されたキュウリを規格に沿った本数だけ箱に並べたり、キュウリやトマトのに入った段ボールをテープで封をしたりする作業も行いました。最初は、テープが上手く切れず上手に貼れなかったり、箱に定数並べられなかったりしていましたが、受入れ農家の方達の指導により、綺麗に箱詰めが出来るようになりました。

職場体験を通して農業に興味を持ち、将来島立でキュウリを生産してくれる人が出ると思います。

荒井公民館研修旅行

6月10日、参加者25名は県営名古屋空港(小牧市)に昨年11月オープンした「あいち航空ミュージアム」を見学しました。

館内には戦後初の国産旅客機YS11等の実機、零戦(復元機)、名機百選の模型が展示され、パネルと併せて日本の航空史を学びました。戦後、占領政策で航空機の研究・設計・製造は禁止され、解禁されたのは昭和32年でした。展示の人員輸送型YS11P152号機は小牧基地隣接の三菱重工で要人用として製造され、天皇陛下も搭乗されました。

見学後、昼食には脂が美味しい名古屋コーチンを石板焼で頂き、帰途には朝ドラ「半分、青い。」の「ふくろう商店街」のロケ地、恵那市岩村町本通りに立ち寄り五平餅を頂きました。



塩の道を歩き 歴史を学ぶ 第2回

今年も標記の講座が、6月16日(土)に開催されました。昨年の千国コースは史跡も多く比較的歩きやすい道ですが、今年「石坂越え」の距離は短いのですが、勾配も急でそれだけ厳しさを感じさせます。心配された雨も上がり、少し肌寒い程度で、歩くにはむしろ好条件になりました。

10時頃小谷村の下里瀬温泉に着いた一行17人は村の観光連盟の田中さんの案内で石坂越えの道に入りました。

千国旧道は燕岩で分かれませんが、姫川東の丘陵地を行く旧道は居眠りして崖から落ちかけた牛方を牛が引き止めたなどの伝承がある危険な道ですが、機会があれば一度は歩いてみたい道です。



雪の重みで根元が曲がった木

下里瀬の先は池原など小集落の点在する新道を石坂に向かいますが、中土駅付近からは史跡なども少なくなり、峡谷を縫っての険しい道です。左手の稗田山は明治44年に浦川の峡谷を姫川合流点の来馬まで流れた大崩落が、辺りの景観をすっかり変えてしまった所で、崩落の際に飛んだ大礫が今も点在しています。

下里瀬から2時間ほど歩いて12時半頃石坂に着きました。石坂の浦川橋の下の道路端に作家幸田文の『崩れ』の一節を記した「歳月茫茫之碑」と呼ばれる被災百年を記念する慰霊の文学碑が建てられています。

文学碑を読み、碑田山の大きな崩落を遠くから見学して、迎えるバスで下里瀬へ戻ったのは1時頃、サンティンおたりで遅い昼食を食べました。

昼食後、希望者は温泉で疲れを落とし、無事にこの日の

日程を終えて2時半頃松本に向かい帰途に就きました。